



HPはこちら

2021春闘要求決定!

第8回中央委員会開催

東日本ユニオンは2月10日、東京都「Instabase 内海」において、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行う中で「第8回中央委員会」を開催しました。

2021春闘要求

1. 定期昇給を実施すること。昇給係数は4係数とすること。
2. 基本給ならびに初任給を、社員一律3,000円引き上げること。
3. エルダー社員の基本賃金を、一律3,000円引き上げること。
4. 第二基本給を廃止すること。
5. 2021年度の賃金改定においては、賃金規程第23条の特別加給を行わないこと。

質疑では、全12地本12名の中央委員から発言がありました。「2021春闘」で賃金引き上げを勝ちとる決意が語られたほか、中編成ワンマン運転の課題やコロナ禍での運動における成果と課題。そして、業務諸課題に対する職場からの取り組みの成果と教訓などが力強く語られました。

提起した全ての議案を満場一致で採択し、全組合員で闘う意思を打ち固めました。

定期昇給には手を付けさせない!
強い決意をもって、要求実現をめざし闘っていこう!

委員会宣言（案）

本日、私たちは「Instabase 内海」において第 8 回中央委員会を開催し、コロナ禍における労働組合運動を総括すると共に「ベースアップ 3,000 円」を柱とする「2021 春闘」要求を満場一致で確認した。

今春闘は J R 東日本発足以来、初の赤字下における闘いとなる。1 月 29 日に第 3 四半期決算と合わせて発表された 2020 年度通期業績予想も、単体の四半期純利益で▲3,950 億円と下方修正されるなどの厳しい数字が示され、世間では早くも定昇をも危ぶむ声上がり始めているという。しかし、賃金は中長期の経営環境・経済動向を踏まえた上で総合的に決定すべき性質を持つ。今期一点のみを注視し、進むべき方向を見誤ってはならない。

この間、J R 東日本の右肩上がりの成長を実現させてきた J R 労働者は、コロナ禍においてもエッセンシャルワーカーとして安全・安定輸送を担うことで将来の業績回復に向けた素地を築き、その上で経営環境改善への一助として職場のコスト削減に励んでいる。職場における愚直なまでの取り組みを通して変革のスピードアップを担い、2021 年度の黒字化を達成する決意に立つ J R 労働者の労働力の価値は決して安売りすべきものではない。職場で囁かれるネガティブな声に対し、労働力商品としての自らの価値と、赤字決算とは言え盤石とも言える J R 東日本の経営体力の理解と喧伝が、私たちの「2021 春闘」における最大のテーマなのだ。

すべての組合員は職場の J R 労働者に、自分の言葉で「2021 春闘」を語ろう。さらには赤字下における企業活動が健全に行われているかチェックしよう。私たちは会社の発展に寄与する労働組合として「2021 春闘」勝利に向かい邁進する。

第 9 回定期大会をはさみ、3 名の新たな仲間を迎え入れることができた。これは組織化を意識する J R 労働者が同僚としての関わりを超え、経営施策や職場諸問題に対して労働組合運動として改善に向き合う姿勢を伝え「東日本ユニオンで一緒にやろう！」と呼びかけた結果である。

一つひとつの闘いの積み重ねが確実に組織強化・拡大に結び付いている。2020 年度年末手当回答に対する追加支給の要求は、それまでの慣例的スタイルを超越した取り組みへの提起となり、職場に議論を巻き起こした。そして、コロナの感染拡大防止策を施した上での組合員間の相互議論は要求への納得感と追加支給実現の機運へと高まり、組合員と 12 地方本部の一体感を勝ちとることができた。まさに、闘いこそが組織拡大と組織強化に直結するとの教訓を得たのだ。

「組織力」こそが、私たちの最大の武器である。「2021 春闘」に勝利し、J R 労働者の生活向上を実現するために、私たちは闘いを通して組織拡大を実現する。そして、すべての J R 労働者の力の結集をめざす。離散した J R 労働者の団結を取り戻し、J R 労働者の生活の安心と安定の実現に向け、私たちはコロナ禍における J R 労働運動の先駆者となるべく自らを鍛え、前進するものである。

以上、宣言する。

2021 年 2 月 10 日
J R 東日本労働組合
第 8 回中央委員会